

第6回 新発田駅前複合施設基本設計審査会 会議概要

- 1 開催日時 平成26年1月10日(金)午後1時30分から3時45分
- 2 場所 新発田市役所 別館 4階会議室
- 3 出席者 10名(委員全13名)

中 渡 憲 彦 委員	吉 田 育 子 委員
近 藤 麻衣子 委員	前 田 圭 子 委員
鈴 木 美和子 委員	鈴 木 秋 彦 委員
竹 田 和 夫 委員	山 口 恵 子 委員
寺 尾 ちはる 委員	山 田 恵理子 委員

欠席者 3名

川 本 健太郎 委員
荒 川 真里子 委員
三 浦 ユリコ 委員

- 4 傍聴者数 13名
- 5 会議次第

(1) 報告事項

- ① 基本設計作成業務委託の工期延長について
- ② 第5回基本設計審査会概要について
- ③ 提案箱に寄せられた提案等について
- ④ 高校生アンケート集計結果について

(2) 議事

- ① 新発田駅前複合施設基本設計案(平成26年1月10日)について

事務局

明けましておめでとうございます。

年の初めのお忙しい中、おいでいただき、また今日は大勢の傍聴の方もおいでいただき、お礼申し上げます。

私の方から、これまで進めてまいったワークショップ、設計審査会、市民の皆さん、高校生のアンケート、ご要望、ご意見を市の内部で検討してきた結果をお話させていただきたい。提案箱は市内16カ所に設置し、合わせて116件のご意見、ご提案を頂戴した。さらに図書館、こども課など実際に事務を進めるセクションからの要望、提案を踏まえた形で12月8日にお示した床面積約6,600㎡の4階建ての複合施設として図面等を提示させていただいた。市が佐藤総合計画に発注した委託の段階では床面積約6,000㎡で設計委託したが、様々なご意見、ご要望を叶える形で設計をしたところ、約6,600㎡であり、約600㎡床面積が増えてきていた。前回の審査会の中で

も、本体工事、設備などの事業費が出た中で市の財政計画等を検討しながら、見直すべきについては見直しをさせていただいて、今日の審査会にご提示させていただいた。

理想案となると非常に大きな事業費が、結果として出てきた。これについては、床面積が約600㎡増えたこともあるが、ご案内のとおり、昨今の建設資材費の高騰と労務単価が相当アップしていること。4月から消費税が5%から8%に増税されるなど、様々な要因があり、当初お示しをした計画案では、このまま事業を進めていくことは、市の財政シミュレーション等を検討した結果、この計画では難しいということになった。与えられた財政力の中で検討した結果、ご要望いただいたもの、私どもが計画したものの全てをこの施設に取り入れるのは難しいという判断から、できるだけご要望、ご提案を活かしながら、見直しをせざるを得なかった状況である。

今日は皆様の前に模型を提示し、後ほど設計事務所から詳細の説明をさせていただくことになるが、今回お示しするものは床面積約5,200㎡、ピロティーを含む面積は約7,300㎡の案である。この計画案であれば、新庁舎、今回の複合施設の事業費を含んだ中で財政計画を十分に実施できる。また、今回の基本設計については、土地の有効利用、建物内部の見通しや連続性、コストや効率性や構造、コンセプト等を総合的に判断し、市としては今日ご説明する「計画案」で進めて行きたいと考えているので、委員の皆さんから、色々ご意見をいただきながら、ご審議いただきたいと思っている。

私の方から説明の前に概略の話をさせていただいた。

設計業務受注業者

- 基本設計案を図面、模型を使い説明
- 前回の審査会で論点になった部分に対する対応を説明
 - ・ キッチンスタジオとエレベーターの間の距離、動線を整理すること。
 - キッチンスタジオを児童開架側に配置し、エレベーターとの動線を短くした。
 - ・ 菱形である合理的な理由、メリット、デメリットを示すこと。
 - 菱形の「計画案」と方形の「検証案」の比較及びメリット、デメリットを提示
 - ・ 菱形の事例を提示すること。
 - 明治大学和泉図書館、小布施町立図書館の事例を提示
 - ・ 方形を基調にした設計による建設費、席数、蔵書数の違いを提示すること。
 - 方形を基調にした設計図を作成し、建設費、席数、蔵書数に大きな違いがないことを確認
 - ・ 人の流れ、機能の繋がり等の確認するため、模型を作成すること。
 - 模型を作成
 - ・ 席数と駐輪台数を精査すること。
 - 駐輪台数を見直す。
 - ・ ガラス面と壁面の場所を示し、熱効率等が分かりやすく示すこと。

→図面及び模型でガラス面と壁面を提示

委員長

ありがとうございます。

説明を要約すると二つの話があった。まず事務局からは、12月8日のワークショップ、12月11日の審査会から約1カ月たったが、その間に大きな変更事項があった。今までの市民や我々の議論や機能を残しつつ、財政面から面積を縮小せざるを得なかった。

二番目は佐藤総合計画から計画案の説明があった中で、前回の審査会で論点になった部分を1カ月間事務局と揉んで、特に平面の形状と検証案を考えていただいた。また、100分の1の模型をしっかりと作って来ていただいて、さらにはデータの面でも座席数、蔵書数、施工費を含めた事業費がほぼ同等であるというデータを出していただいた。事務局としては、この「計画案」で今後進めたいということであるが、これらについて委員の皆さんからご意見があればお願いします。

委員

12月の図面からだいぶ縮小されているが、財政面のことを考えると大きな思いもあるが、出来る範囲の事業であることが一番大事である。今後は、オープンした時に稼働率を上げられるような内容にすることに集中していかなければならないと思う。立体的なものを階ごとに見ることができて、より具体的で分かりやすく認識できた。

計画案と検証案の2階で、一連の流れから回を重ねる毎にイメージができてきた。計画案では児童開架に一時預かりの部分があり、検証案ではプレイルームにある。設計の状態でこうなったのか。実は保育園での一時預かりは、0歳児と1歳児がほとんどである。そして、一時預かりの部屋に閉じ込めておくことはまずない。他の子どもとコミュニケーションを取ることで、精神的に負担が和らぎ、私たちも手を貸しやすくなっている。一時預かりをプレイルームに近づけて、常に移動できるような位置関係が効果的だと思う。検証案ではプレイルームにあるが、計画案の方が児童開架に少し寄っている。図書を見るような子どもは来ないので、位置関係が移せるのかお聞きしたい。

委員長

一時預かりの位置が検証案の方が良いということか。

委員

一時預かりがプレイルームに入っているので、プレイルームと一緒に動きがイメージできる。預かりを利用する親御さんは、緊急性があって来る。例えば出産や病気あるいはリフレッシュや美容院に行くために、見る人がいないために短時間預けて行く方がほとんどである。そういう時、小さいので泣くことが想定されるが、子ども同士、言葉がなくとも子ども広場的な位置に移動するだけでも子どもの心理が安定してくる。なのでプレイルームに近い方が、図書に近いより移動しやすい。靴を脱いで上がる、靴を履くという動線の

部分で合理的に考えてもらいたいと思う。

設計業務受注業者

ゾーンの中の入替えであればできる。我々としては、検証案としては、逆に収まらなかったと思っていた。一時預かりの機能が、預ける人がキッチンスタジオとの関係性でお母さんがここに預けてさっと帰れるなど動線上はこちらの方が良いのではないかと、ということで計画案をお勧めしている。駅前ということで、また違った使い方での利用が増えると思うので、このことについては、こども課と協議をさせていただきながら、エリアの中でどちらが良いのか考えたい。

委員

手を差し伸べる側としても非常にやりやすい。

設計業務受注業者

どこの一時預かりや子ども室を見ても、中が見えないようにしているところが結構ある。プライバシーに配慮している。長岡の「てくてく」でも待合からお昼寝室の丸い窓にすりガラスのフィルムを張っている。見られたくないようである。

委員

最初のうちはそれでいいが、慣れてくるとそのエリアだけではストレスになるので、天気良ければ散歩に連れ出したりもする。様々な使い方ができるようなエリアに置いてもらいたい。

設計業務受注業者

繋がり方を工夫できるようにする。

副委員長

キッチンスタジオと準備室の間にある前室は何か。

設計業務受注業者

キッチンスタジオに入る前に靴を脱ぐ。サービスデスクの上の出入り口にも下駄箱はあるが、ここでは靴を脱いだり、白衣を着たりするのがこのスペースでは行いにくいという意見があったので、こちらの前室であれば、一度こちらに入って靴を脱いでキッチンスタジオに入ると使いやすいと考え、こういう形で前室を設けている。

副委員長

準備室が隣にないと非常にやりにくい。

サービスデスクの前からは入れないのか。

設計業務受注業者

今、出入り口を二つ設けている。どちらからも入れるようにしている。

副委員長

準備室が隣にないとやりにくい。

設計業務受注業者

下駄箱の前のスペースの取り方もサービスデスクの前の下駄箱のスペースの取り方も、

色々な取り方がある。少し空間を作ればできる。ただ親子で来た時に靴を脱いで上がれる部分があった方が良いという要望が市と相談している中でもあった。

委員

前段の事務局のお話を聞いて、新発田市の苦しい財政の中で本当に大変だったと思っている。面積の縮小はやむを得ないものだと思っている。縮小した中でも必要な機能をコンパクトにまとめているというのは非常によくできている。広いだけが良いものではない。極力、余計なものだけ削って、必要なものだけをここに載せている。面積は減っていても必要なものは載っているのだから、これで良いのではないかと。

せつかく造るのであれば、新発田らしいものをお願いしたい。流れも、菱形が使いにくいという話もあるが、書架の見え方や流れが、自分が先に進んでいきたいと思うようなイメージができる良いものだと思う。仕方ないかなと納得しなければならない部分もあると思っている。

委員

2点あるが、まず1点目。市に伺いたい。

私が良く聞いていなかったこともあるかと思うが、話が違ってきている気がする。元々この計画では、財政状況がこの1年間に激変するようなことは考えられない。消費税、その他についても予測されたことだ。それがここに来て圧縮しなければならないのは、全くもって理解しかねる。ここに傍聴の方も大勢来ているように新発田市民にとっても、それ以外の人にとっても色々な意味で注視されている事業と思う。他の施設以上に市の予算の総枠の中で他のところを保留したとしても、この段階で納得できるものを造らないとまずいのではないかと思う。私は新発田に来て日が浅いが、財政状況が悪いとは思わない。他にもっと悪い市町村がたくさんあって、皆その中で良い図書館を造っている。なぜ、新発田がそこそこの財政状況の中で財政状況が悪いという言い方をするのか。中身を知らない人に対しても説明が違うと思う。総枠の中で調整ができると思う。私も役所にいたので良く分かるが、予算がない、財政状況が悪いというのは方便でしかないわけで、総枠の中で必ずやれる。他の部局とかに説明をつけて、待ってもらうものは待ってもらう。義務補助的なもの以外は待ってもらえば、必ずできる。また、民間棟の建設や周辺のを抑える必要があるのではないかと。このままだと民間棟だけ目立ち、図書館が目立たなくなる。新発田らしさは、駅を降りてぱっと見えていないと何の意味もない。民間棟に隠れたり、他のものに隠れたりしていたら、中に入ると分かるかも知れないが、まずは中に入りたいという気持ちにさせる第一印象が大事である。新発田駅を今直しているが、あの雰囲気とマッチするように持っていく。だから圧縮は反対である。これは合併特例債とかの条件で国の方が待ってくれとか、圧縮してくれというのがあれば別だが、特にそういうのが無ければ、圧縮する必要はない。むしろ、たくさんの傍聴される方もおり、これまでの経緯や諸問題、駅の問題、市役所の建設の問題などの色々なしなみがあって、他の市町村で造る図書館と性格が違うと思う。だからこそ、きち

んとしたものを造るべきと思う。当初の計画の私たちが積み上げてきたフロアでやってもらいたい。

二点目。形にこだわるが、メリット・デメリットを出していただいております。しかし、これは図書館の司書の人たちなど実際にやっている人たちの意見を聞いて作ったのか。ちょっとだけ利用する人や、ちょっと見の人が意見を言って作るのは違うと思う。ずっと長く利用している人や長く勤めている人の意見を聞いた上でやらないと、ちょっと見の人が言って、ずっと手直しできないとまずい状況になると思う。なぜ全国の図書館がこのような変形の形を取っていないのか。こういう形を取っているものがあるのも分かる。だが、それは全体の中の一部である。なぜ、全体の中でこういう形をとっているのが少ないかを検証したのか。どうやったら検証できるかというのは、やはり長く勤めている人や利用している人に細かく聞かなければならない。それ以外の外部のアンケートを取るくらいでは駄目である。それを私はお願いしたつもりだったが、それが全然出ていないと思う。形はやはりおかしいと思う。以上です。

事務局

私の方から財政の話をしていただく。

委員からご激励をいただいた。私の言い方が悪く、財政状況と捉えられた。

財政状況については、20市の中で決して悪い位置にない。財政状況という訳ではなく、当初基本設計を作るに当たり、概算の事業費を出した。おおよそ想定される面積、坪単価については、昨年2月に図書館を含めた考え方を市長から議会に説明をした。国等とも協議を進めている中で用地の取得費を含めて22億5千万円程度の事業費で説明した。そんなに上がったのかというご指摘、まさにそんなに上がった。新庁舎についても当初計画した事業費が基本設計、実施設計を進める中で10億円ほど増額せざるを得ない状況になった。要因としては、昨年3月との比較で人件費が13%ほど建設関係の労務費が上がっている。アベノミクスのためか震災の復興等もあり、建設資材が非常に高騰している以上に資材が予定通り入らない状況である。

また、様々な意見、私どもの思いなどから面積が増えた。当初、想定していた事業費から膨らんでしまった。他の事業を我慢してという図書館に対する思いは大変ありがたい。市では様々な事業を行っているが、学校の耐震化、その後、障がい者・高齢者の施設であるいきいき館も耐震化されておらず、改築なりの事業を進めて行かなければならない。市として総合的にハード事業、ソフト事業を進めている中で、市の財政規模や今後の事業のシミュレーション等、様々考えた結果、補助金はあるが、事業費を抑えて行かざるを得ないという中で佐藤総合計画に指示をさせていただいた。

民間の計画は、基本設計が出来ていない中で示すことはできない。駅前の土地は、新発田市が所有しているほか、民間の2社が土地を持っている。1社は土地を譲ってもらおうお願いをしてきており、12月議会で土地購入の予算を議決いただいたことから、所有者と年末に契約の手続きを進めてきたところである。もう1社については、複合的に

駅前を含めて賑わい創出のために一緒に事業をしたいということで協議を進めてきた。その中で等価で土地を交換することで、土地を移転してもらうことを総合的に判断した。

駅を降りて全部見えるというのは理想だが、土地を所有する方々との協議の中で現在の配置で進めてきた。確かに見え難いというご指摘はあるのかもしれないが、今回の案についても図書館棟と民間棟の間にできるだけ大きなスペースを取るようになっている。土地形状に合わせ、見やすい形に配慮してきた。

二点目の質問について、私の方からお答えするものかどうかはあるが、形の問題である。委員が言う全国的に四角形であり、今回はそうではない。その中で働く職員の意見はどうなのかとのことであった。形状については土地の有効利用ということもある。今、与えられている土地の形状の中で精一杯有効的に活かし、委員から話があったが、建物の中での流れ、特に2階部分ではこどもセンターから児童書架、一般開架への動線部分、3階部分を見てもらうと分かるが、四角形を2つくっつけた形であるとサービスカウンターからの死角が多く出てくる。菱形であると死角が少なくなるなど様々なことを考えた中で本日の計画案を示した訳である。この計画についてワークショップ、提案箱等で意見をいただいている。今日も図書館の職員が何名か来ているが、市の内部でも教育委員会、所管する図書館の職員と議論しながら作ってきた。職員の意見を聞かないということはない。委員が言うとおりの、全国的には従来の建物は四角を組み合わせたものが一般的であることはその通りだと思う。様々なことを総合的に検討した中で今日のご提案ということである。

設計業務受注業者

難しい土地形状であり、工夫しないとうまく使えない。利用者が使いたくなるような図書館の見え方もする。管理運営についての図書館職員の意見も十分反映できているので、まずはこれをベースに進め、一步先に進んだ時に調整するところは出てくると思うが、基本設計の枠組みの中では、十分反映できていると思う。

委員

お話いただいたが、依然として釈然としない。

委員長

建設業界では、とんでもないことになっている。東京オリンピックが開催されるといってすぐに職人不足になる。オリンピックをはじめ建設ラッシュが始まると資材だけでなく、人が足りなくて、外国人を1万人入れないと物が建たない世界に突入しつつある。そうするとお金を上げるしかない。それを先に読んで上がってきている事情がある。財政状況については、このような状況も入れて積算しているように聞いている。予算については相当頑張って、事業が迅速に進むように検討している。

委員

話は分かるが、この建物については傍聴の方がいるように賛成の方、反対の方がいるように他の市町村が建てる建物より、色々なしがらみの上で来ている。色々な意見、考

え方を取りまとめていく中で圧縮するというのはいかなものか。他の建物とかなり違うと思う。良く分かるが、それを踏まえた上で調整しようと思えばできないことはない。建築主事もいる。努力の問題である。

委員

先回、目に見える形で示してもらいたいとお願いした張本人である。大変、時間をかけて努力されて、触って分かる、見て分かる模型を作っていただいたことに感謝申し上げる。

当初22億5千万円であったものが、現在どういう額になったのか。

事務局

当初、用地の取得費、本体工事費を合わせて22億5千万円と議会の方にも示してきた。これは備品については計算していなかった。外構もご要望があったが、これも想定していなかった。

今日、お示しした模型の案では、用地費、家具・備品、外構工事、本体工事、電気、機械などの様々な事業費を入れると基本設計の段階なので確定したものではないが、これでも32億円を少し超える事業費になっている。12月8日案の約6,600㎡については推して知るべしということである。非常に大きな金額が出てきた中で、建物だけでなく、市として様々な事業を考えた上で、やはり財政計画上きっちりできる数字に見直しせざるを得ない。見直した段階でも32億円を少し超えることになった。内部での検討の中で今日の審査会でお示しした。

委員長

今、事務局から未確定であるが、かなり具体的な数字が出てきた。努力されて、プラス10億円くらいでやっていきたいという修正案である。12月8日案では面積に単価を掛ける、さらに十数億円かかると想像している。それくらいかかっていたものを修正してきた。皆さんの思いを残念ながら、少しずつ縮減しながらも、何とかベストな案として、今回模型まで作ってきた。ガラスの面と壁の面としっかり提案している。かなり努力してきている。平面についても、こういう敷地しか与えられていない中で、これ以上事業費を上げない意味でベストな選択なのかなと個人的に感じる。

この点についても委員の方からご意見あればお願いしたい。

委員

前回の図面と比較して見せてもらっていた。一番大きなところは4階建てを3階に1フロアが減にされている中で蔵書数が20万冊、今回の案も20万冊で1階減らしたのに設計を比較すると分かるが、かなり工夫いただいていると感じている。今回の変更の中で一番良いと思ったのは、修正前には4階に学習室があり、高校生が学習して、電車に乗るのにわざわざ1階まで降りてきて、走って大変だと思っていたものが、今回クリアされていて、1階で書籍を読むこともでき、学習もできるようになったというのは、高校生のアンケートも拝見し、減築したことで良いところが出たと思っている。

観光的な視点から申し上げると、前回のものだと1階から観光客がご覧になるものになかったが、書籍が見えたり、1階の多目的室で映像等を流すことが可能だと思っている。また、2階の玄関のすぐ脇に展示室があるということで、外から来られた方にも例えば時期に合わせた忠臣蔵とか8月は新発田まつりであるとかテーマを合わせたものを展示いただけると駅からお客様が複合施設の中に入って、まちの中に出て行こうという意欲が向上する。さらに、この動線にするとキッチンスタジオとの関連が明確になったと思う。

次に計画案と検証案を比較させてもらおうと検証案では隣接の建物との間が非常に狭く、お互いに圧迫感がある可能性がある。駅から見ても民間棟が目に入る中で、さらに民間棟とひしめき合っていると感じる。

もうひとつは駐車場の問題で、ワークショップでもできるだけ台数を確保して欲しいと話があったと記憶している。台数的にそんなに変わっていないように見えるが、計画案は60台、検証案は58台となっているが、うち軽自動が12台入っていて、一般車両で比較すると減になっているというのが1点。前回、駐輪場に200台分が本当に必要なのかと言ったところ、100台になっていた。検証案は90台となっている。私も含めて、市民の皆様、来街者の皆様が利用する視線に立って、機能としての点が優れていて、前回より数段、検討を重ねられ、工夫を感じることができたと思っている。

12月8日案からの比較、検証案との比較としては、私は計画案が良いと思う。

委員長

前回よりは良くなっているところが多いということですね。

委員

出発のところから考えるとよくぞここまでまとまったと思う。

子育て支援の関係から、こどもセンター一筋で話をさせてもらってきたが、なぜに図書館にプレイルームなのか繋がりが見えてこなかった。回を重ねる毎に意義を考えたら、ブックスタートという制度がある。生まれた子どもたちに新発田市からプレゼントする本。何を求めて、本を送るのか。国の方針も含めて、新発田はいち早く手を付けて、新潟市より早かった。絵本の貸出し、幼稚園、保育園、もちろん図書館での絵本の読み聞かせとそれら全部が重なっている。図書館を媒体とした一連の賑わい、観光も含めた拠点とするにはこの形状と流れとして素晴らしいものがあると思う。

プレイルームの総面積は塩尻の旧イトーヨーカドーのプレイルームと同じくらいの面積になっている。今日、欠席している委員とも話をしたが、あれだけの面積があれば、色々な事業が展開できる。去年の利用数だが、猿橋コミュニティーといきいき館の利用者数は親子で年間1万5千人である。うすが森や子育て支援センターの利用者などをトータルすると4万3千人になる。塩尻のプレイルームの利用者が5万人くらいであった。あっという間にここの利用数は上がるのではないかと。紫雲寺や川東にプレイルームがある人たちも一度は組み込みたい。キッチンスタジオもある。色々なことが経験できる。

夢が膨らみ、希望を持って利用する施設になったのではないかと設計図を見て思った。ぜひ、キッチンスタジオも拡大しつつ、食育、食とみどりの新発田っ子プラン、子どもの食する命の繋がりである。充実したものを望みたい。

委員

計画案の2階のところで、立体的な模型を見て、なんとなく想像しながら、自分の子どもを連れて行ったときに、こんな感じになるのだと考えていた。トイレはプレイルームに一つと歴史書の前に一つあり、二つしかない。たぶんプレイルームのトイレは靴を脱いで上がって入る。子どもは直前にしか言わない。敷地もかなり広い。子どもを二人連れていた場合、遠いと感じたので、もう一つ大きくなくてもトイレがあると子育てする身としては、ありがたいと思う。

また、プレイルームの小学生低学年の部分が削られているが、これは平日は学校に行っているので表記はなくなったが、休みのときは時間を変えるなどのやり方で小学生低学年も遊ぶことができるようにしていただけるのか。

設計業務受注業者

面積としては、小学生低学年分を落としているが、プレイルームをどのように分けて使うかは、こども課等と話し合いをしながら決めていくことになる。

委員

広報に載ったのを見て、子育て中のお母さん方はこんな使い方ができたらいいねと期待している。

委員

サークル活動でも靴を脱いで部屋に入る。そのときトイレも遠いということであるので、多目的室もプレイルームに近づけて、組み込んでもらおうとトイレの問題もクリアできる。お子さんも使う部屋なので位置関係を含めて、検討してもらいたい。

おむつ交換の場所は、女性トイレはもちろん、男性トイレにも交換場所を設置してもらいたい。さらに、こども便器があることを考慮した面積のトイレであってほしい。

設計業務受注業者

こどもセンター内の多目的トイレの方におむつ交換台を入れる想定の間面である。

児童書架に隣接したトイレであるが、親子トイレを設ける場合もあるが、担当課と相談したい。

委員

職場に戻らなければならないので、お願いをしたい。提案である。建物の形にこだわるが、全国の中で複合施設であると言っても図書館が基本になっているものであるから、図書館の本来の姿である、全国的に最多で採用されている方形ベースで考えて、変形で張り出した部分は上に上げる。これで設計し直したらいかがでしょうか。先ほどからの財政難の理由はそんなに離れていると思わない。方形ベースで考えることを改めて提案する。

市の財政というが、合併特例債ではないか。国の特例債があつての事業である。市の方が大変だという理由にならない。合併特例債の事業であり、市の単費の事業であれば分かるが、そうでなければ一般の人には示しがつかない。反対の人もいる、市の施設の問題がある。怨念みたいなのがいっぱいある施設であると聞いている。一つの産物である。いい意味にしろ、悪いにしろ。市民の反対も賛成も色々な意見を積み上げてきた。それをひっくり返すのは他の施設とは違い、絶対してはいけない。それは鋭意努力して、皆がそれぞれの部署で考え、この建物だけはそうしてはならない。色々な批判も出るかと思うが、覚悟して遂行しなければならないと思う。

事務局

委員のご意見として受け止めたい。

委員長

ちょっと性急じゃないかという意見があつたが、他に意見はないでしょうか。

委員

車の動線が、前は神社側から入って、商店街側から出る動線は確保されていた。今回の計画案では商店街側は行事や緊急のみとなっている。安全等を配慮した計画なのか。

設計業務受注業者

ご指摘の通り、前回の図案は諏訪神社側から入って、商店街側から出ていた。既存建物の車庫がある、商店街側の方が交通量があるので渋滞が発生する懸念、歩道を跨がなければならない、新発田まつりの時に交通止めになるなどを理由に諏訪神社側に出口と入口を設け、補助的な入口を商店街側に置くことで、より安全になると考えた。今後、警察協議もあり、変更される可能性はあるが、現段階での方針である。

委員長

皆さんからご意見をいただいている、ほとんどの委員の方からは計画案について肯定的な意見をいただいている。竹田委員からは、財政的なことから縮小ではなく、市民の皆さんが積み重ねてきたものを実現できるよう努力してもらいたいというご意見があつた。

私もワークショップを1回以外、全部傍聴させていただき、市民の意見はかなりのボリュームで取り入れられて、審査会に出されている。後半はさほど異なる意見が出なくなり、賛同される方が増えてきた状態であつたと傍聴席から感じていた。審査会での議論も年末から年を越してしまつたが、建築の部分での削減もあつたが、最大公約数的としては百点満点ではないが、合格点ではないのかと思つた。減点している部分はこれからどう百点に近づけるのか議論はあるが、期限も迫っているので、合格としておき、次の段階で良くしていくという方法もある。委員長として、年明け早々に判断を迫られている。委員の皆さんはどう考えるか。

市役所も相当短期間に、市民の皆さんも短期間で頑張ってもらった。さらには業務委託を受けた佐藤さんはプロ中のプロである。創業者は早稲田大学を卒業された建築家

の佐藤武夫さんで、先生の設計理念、考え方は日本の建築の歴史の中でもご立派で、今回それを背負って、図書館という公共建築物、さらに子育て支援センターや市民の方たちの中でかなり議論が白熱したキッチンスタジオを上手にまとめて、新発田の個性的な公共施設として駅前にできることに新発田の新しい顔というものを感じている。だから、もっと議論が必要なのか、ここで承認して次のステップに進むのかというのを委員の皆さんのご意見をもって、委員会の考え方としたい。

委員

私は次のステップに進むべきと思う。

委員

昨日いただいたアンケート結果で、特に高校生が何を考えているのか。私は高校生をサポートしたい気持ちだけで来ている。非常に興味深い内容である。率としては、どの学校も3年生で2割を超える。これを大きくまとめると、駅前にこういう場所ができるという事を大変歓迎している。新発田駅のヘビーユーザーである高校生がそう言っている。私が長い間感じていたことである、立ち寄りところとして、これから電車が遅れる、止まる時にそういうところを必要としている。屋根があるところへ入れてもらえるだけでも、加えて勉強ができる。勉強がしたいという強い声がたくさんあり、それがうれしかった。

決定するまでの経緯を知らずに業務に専念していた。議会で決まったということで、その線で出来るだけの努力をさせていただいた。若い人たちが何を望んでいるかという路線と同じ方向を向いて、できる範囲内でベストを尽くすということ。32億円に変わっても、それは削っての32億円である。私個人の気持ちでなく、高校生の気持ちを代弁するつもりで、ぜひ進めてもらいたい。

委員

今、中渡委員長が言っていたとおり、ある程度形・面積が決まったわけだが、実施設計の中で、今後も調整ができる。時間がない中ではこれで進めるべきと思う。

委員

ここまでできれば、この後も修正が可能なのであれば、時間的なものもあるので前に進めたらと思う。

委員長

だいたい議論が出尽くした感じがある。審査会として駅前複合施設の計画案として了承されたら委員長として考えますが、承認するということがよろしいでしょうか。

— 「よし」の声あり —

では当審査会ではこの計画案を設計案として承認することとする。委員の皆さんには計画案をご承認いただき、ありがとうございました。

さて、ご承認いただいたので、これを市長に報告しなければならない。そのため報告書を作成しなければいけないが、委員の皆さんに相談したい。

審査結果報告書とは、機能、配置及び平面について審査を重ねてきた結果、概ね妥当と考えるという審査結果と今後も事業費の削減に努めることや実施段階においても市民や関係部署の意見を取り入れて、様々な工夫をすることなどの意見を付した文書を作らなければならない。それにプラスして、今回の平面図の資料などをまとめて添付する作業がある。その作成について、委員に選択していただきたい。一つ目は、審査結果報告書を作成し、再度審査会を開催する方法。もう一つは、報告書の作成を委員長の私にお任せいただく方法がある。この二つの方法があるが、委員の意見を伺いたい。

委員

私は委員長に一任する。

委員

私も委員長に一任する。

委員長

よろしいでしょうか。

— 委員一同頷き、異論なし —

それでは、私に一任ということで了承をいただいた。ありがとうございました。

今後、報告書の作成にあたり、皆さんのご意見を反映させ、特に実施設計の段階において、市民も含めて多くの方々の意見を十分取り入れ、より良いものにしていくことを目指して、工夫してもらおう事を強く付記して作成していきたいと思うが、これに対する意見はないでしょうか、また他に報告書に付け加える意見はないでしょうか。

— 「なし」の声あり —

無ければ一任いただいたので、審査結果報告書を作成し、後日、副委員長と報告する。それと同時に皆さんに郵送でご報告させていただくことでご了承願う。

これで議事の1、設計案について終了させてもらおう。ありがとうございました。

② その他

なし

(3) その他

なし

副委員長 審査会終了のあいさつ

委員長 審査会終了のあいさつ

事務局 お礼の言葉

閉会

— 15 : 45 閉会 —